

第2回第10採択地区教科用図書採択協議会 議事録

開催年月日	令和2年7月15日(水)		
開催場所	三芳町役場3階501会議室		
開催時間	13:00 ~ 17:00		
教育委員会	出席者		
富士見市	山口 武士 教育長	小野寺 巧 教育長職務代理者	
	簗輪 菊雄 教育委員	渡部利枝子 教育委員	深井美千代 教育委員
ふじみ野市	朝倉 孝 教育長	富田信太郎 教育長職務代理者	
	塩野 好一 教育委員	丸山 昇 教育委員	茂井万里絵 教育委員
三芳町	古川 慶子 教育長	池上 善一 教育長職務代理者	
	長野真寿美 教育委員	鈴木 信之 教育委員	細谷 雄司 教育委員
		事務局	
		学校教育課長	石井 勝博
		指導主事	鳥山 裕貴

げます。

(事務局)

はい。富士見市教育委員会学校教育課の鳥山でございます。お手元の次第をご覧いただきたいと存じます。

議長につきましては協議会要綱第6条により会長に議長をお願いいたします。

次に本日の流れです。

本日は、令和3年度使用中学校教科用図書について、専門員長より研究結果を報告していただきます。

各教科の調査結果を報告したのち、質疑、応答の時間を設定いたします。

以上でございます。

(司会)

ただいまの説明につきましてご質問等はございますか。

それでは、これより、議長を 山口 会長をお願いいたします。

(議長)

はい。それでは第10採択地区教科用図書採択協議会要綱第6条の規定により、本日の議長を努めさせていただきます。協議が慎重に進められ、適切な選定に向けた質疑がなされますよう、ご協力をお願いします。

なお、本会議において、要綱第10条に基づき、非公開とすべき項目の有無について確認します。

(議長)

このことについて、事務局より提案はありますか。

(事務局)

はい。第1回採択協議会で会議は全て公開とすると決定しております。

したがって、本会議につきまして、非公開とすべき項目はございません。

(議長)

ただ今事務局から、特に非公開とすべき項目がないとありましたが、委員の皆様よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

<p>4 報告及び質疑</p> <p>国語</p>	<p>はい。それでは専門員の教科用図書研究結果の報告及び質疑応答については、すべて公開するというところで、協議を続けます。</p> <p>なお、ガイドラインに基づき、採択期間中の教科書発行者による接触は禁止されております。万が一接触を試みる教科書発行者があった場合は、事務局まで報告をお願いいたします。もし、そのような行為が報告された場合は、ガイドライン（4）②のとおり「教科書発行者による不適切な行為や公正取引委員会の警告も勘案して、教科書を採択する。」こととします。</p> <p>皆様、よろしいでしょうか。</p> <p>（委員） はい。</p> <p>（議長） それでは、これより各教科の研究結果報告を行いますが、ここで1点お諮りします。社会科歴史的分野の調査研究にあたって、「学び舎」の教科用図書については、研究用見本本の提供がなかったため、第10採択地区において調査研究は行われておりません。しかしながら、教科書目録には掲載されておりますことから、「学び舎」の内容につきましては県の調査資料を参考にし、選定の対象に含むこととしたいと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>（委員） はい。</p> <p>（議長） はい。では皆様にご了解いただいたものと判断いたします。</p> <p>（議長） それでは、国語の報告から始めます。専門員長を入室させてください。</p> <p>（専門員長） 失礼します。</p> <p>（議長） それでは国語についての説明をお願いいたします。</p> <p>（専門員長） 失礼します。皆さん、こんにちは。</p> <p>（委員） こんにちは。</p>
---------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(専門員長)

私は、国語科専門員長を務めます、三芳町立藤久保中学校、校長の渋谷でございます。これより、国語科調査研究の結果を説明いたします。国語科では4者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「知識・技能を高める工夫」、「思考力・判断力・表現力を高める工夫」、「その他」の3つを設定し、その結果につきまして、お手元の報告書のとおりでございます。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「知識技能を高める工夫」についてご説明いたします。一例をあげますと、詩を鑑賞する学習から自分で詩を作る学習へという、自然な流れで様々な学習ができるよう工夫されています。教科書の構造が「本編」「基礎編」「資料編」に分かれており、関連ある教材が整然と整理され、見やすく、様々な視点から学習が深められるようになっていきます。また、付箋の写真といった具体例も示され、作業がわかりやすくできるなど、レイアウトの工夫があります。多くの中学校が2年生で職場体験学習を実施しており、御礼状の書き方を学習する教材は1年生で学習できるように改善していただけると、さらに高い学習効果が得られると考えます。

次に「思考力・判断力・表現力を高める工夫」についてご説明いたします。読み物教材の「てびき」にある「言葉の力」は、3年間で系統的・段階的に積み上がるように工夫されていて、文章を読む際のポイントを学べるようになっていきます。本編に配置されている「学びの扉」を導入に、基礎編の「学びを支える言葉の力」でより具体的なことを深く学べるようになっていきます。

次に「その他」についてご説明します。「他教科で学ぶ漢字」、「他教科との関連」等、他教科と関連する教材が明示され、教科を越えた学習ができるようになっていきます。また、漫画表記の「学びの扉」は、生徒にとって入りやすい導入となっています。文法を学習するうえで、1年生で「活用のない自立語」まで学べるようになっていきます。

次に、「三省堂」についてご説明いたします。

はじめに「知識技能を高める工夫」についてです。「読み方を学ぼう」で「説明文の基本構造」「人物相関図」「行動描写」「三角ロジック」など様々な観点からの読み取り方を具体的に学び、それを利用しながら読み取りの分析的な理解が深まるような構造となっています。また、上部にインデックスがついていたり、巻末の折り込みにまとまった一覧があったり、3年間を通して反復的・体系的に学習ができるような工夫があります。「学びの道しるべ」の振り返りと合わせて、見通しをもった学習ができるように工夫されています。一点、漢詩は古文よりなじみが薄い

ため、解説文が欲しいところです。

次に「思考力・判断力・表現力を高める工夫」についてです。「読むこと」教材に配置された「学びの道しるべ」で「目標」「内容を整理する」「読みを深める」「自分の考えを深める」「学びを振り返る」「思考の方法」「語彙を豊かに」と項目ごとに学習過程がわかりやすく設定されています。生徒が自分で学習を進める際にもわかりやすくなっています。また、「読み方を学ぼう」「ポイント」「思考の方法」など「学び方」を学ぶための工夫があり、他の単元等でも生かすことができる力を身につけられるようになっています。

次に「その他」についてです。項目のレイアウトや色使いに、原色抑制などのユニバーサルデザインが採用されています。また、「資料編」では全学年共通の資料と各学年で学習する内容の資料が掲載されています。文法を学習するうえで、1年生で「活用のない自立語」まで学べるようになっています。文法教材に前年までの復習が掲載されると、さらなる学習効果が期待できます。

次に、「教育出版」についてご説明いたします。

はじめに「知識技能を高める工夫」についてです。SDGsやアイヌ、AIなど社会的テーマを扱った教材が豊富で、特にSDGsに力を入れています。1年でSDGsとは何かを学び、「地球の課題」「身のまわりのごみ」「なぜ人間だけがごみを出すのか」といった問いについて様々な文章や印象的な写真を用いながら、現代的でメッセージ性が高いテーマを深く考えさせる学習ができるようになっています。自然や環境、科学分野で生徒が主体的に深く学べるようになっています。また、1年生では、金子みすゞの詩の学習から始まります。そこから続く「文学入門」「学びナビ」で難しい概念を丁寧にわかりやすく学習させようとしています。しかし、中学校国語の導入としては、音読やノートの取り方を学べるような教材があると、中学校の学習がスムーズに軌道に乗るのではないかと考えます。古典文学の名作は、江戸時代で終わっているため、近代の名作まで載せると受験に役立つと思われます。

次に「思考力・判断力・表現力を高める工夫」についてです。教材の導入に「学びナビ」があり、学習のポイントがわかりやすく示されています。「読むこと」では、「学習の流れ」として「みちしるべ」で「内容を読み深めよう」「自分の考えを伝え合おう」「振り返り」という学習過程を順序立てて示し、学習の見通しと重点を確認できるようになっています。「話すこと・聞くこと」「書くこと」では「学習の流れ」により具体的に何をすればよいか生徒が明確にわかるようになっています。また、「質問や評価をするときの表現」「伝えたいことを整理して書く表現」など、パターン化した表現を取り上げ、後々の学習で、思考力を押さえた表現活動に活用できるように工夫されています。

次に「その他」についてです。「学びのチャレンジ」はそのまま学力調査や入試問題に使えるような問題で、考え、表現する力を養う教材となっています。また、行が数えやすいように点が打ってあるのも特徴です。

最後に、「光村図書」についてご説明いたします。

はじめに「知識技能を高める工夫」についてです。巻頭の折り込みに観点と教材一覧があり、見通しをもって学習ができます。また、裏面には思考の整理法を記した「思考の地図」があり、度々ここを振り返りながら学習を進めることで、思考の筋道が自然と身につくようになっていきます。読書案内が充実していて、教材末の「広がる読書」で関連書2冊が紹介されるとともに、各学年「読書生活を豊かに」「読書に親しむ」という教材で発達段階に応じた本の紹介や、読書に関する諸活動を学べるように工夫されています。また、ジャンルごとの「読書案内」「作家のコラム」と多岐にわたる読書案内があり、生徒が本に興味をもつように工夫されています。

次に、「思考力・判断力・表現力を高める工夫」についてです。「読むこと」では「学習」（てびき）で「学習活動」「目標」を明示し、学習過程に即して、学習指導要領では「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成・共有」という、難しい文言で示されているところを「捉える」「読み深める」「考えをもつ」というわかりやすい文言で表し、終末の「振り返り」に結びつけるといった、パターン化を図り、思考の流れが定着しやすくする工夫がなされています。「話すこと・聞くこと」「書くこと」では目標と学習の流れがわかりやすく明示されていて、「つなぐ」という項目で日常生活等での活用場面が示されているため、実生活でも生かせるよう工夫されています。

次に「その他」についてです。色覚特性への配慮や弱視に対する配慮が拡大教科書等でなされています。また、新出漢字の取扱いが丁寧で、教材本文の脚注にそのページに出てきた新出漢字、教材末にその教材に出てきた新出漢字の一覧がのせてあります。脚注でその漢字の音読み・訓読みと本文での用例が載せてあります。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。

ただ今の説明につきまして、ご質問がありましたらお願いします。

(委員)

はい。

(議長)

はい、どうぞ。

(委員)

ふじみ野市の丸山です。よろしくお願いします。

(専門員長)

よろしくお願いします。

(委員)

よくまとまってるのかなと思うんですよ。で、あの一つは、埼玉県教育委員会の、そのまとめ内容と、うちの方のまとめ、その関連性みたいのがあったら教えていただけるかなと。

(専門員長)

はい。埼玉県の方はですね、新しい学習指導の3つの観点があるんですけども、その観点についてまんべんなく一般的な形で書かれておりましたので、私たち2市1町の専門委員の会議、話し合いでは、より具体的な形で研究できればいいねということで、今日お伝えしました2つの観点とその他ということで、ちょっと具体的な形で研究を進めさせていただきました。はい。

(委員)

そうすると、よろしいですか？うちのお子たちの実態を踏まえて、自分たちで観点を精査したうえで、このようにまとめたいただいたそういうことでよろしいですか？

(専門員長)

はい。実際に教えてらっしゃる方と私とで話を進めましたので、子どもたちともやり取りの想像しながら、教科書だったらこうだねああだねというような話し合いもさせていただきました。

(委員)

どうもありがとうございました。

(議長)

よろしいですね。他ありますか？はい、どうぞ。

(委員)

富士見市の箕輪です。高校で今度、論理国語という科目が設定されますけども、高校の方が後から出たんですが、中学のこの教科書で、現行と比べてその論理国語に何かこう関連するような変化っていうのを感じられたかどうか。

(委員)

はい。あの各者ともですね、いわゆる思考力・判断力・表現力

を養うための、今まではどちらかと言うと読み物教材が中心だったところを、話し合ったり、書いたり、そういった教材が多く取り上げられているなという印象を持ちました。

(委員)

ありがとうございます。

(議長)

他にはいかがですか？

(委員)

はい。

(議長)

お願いします。

(委員)

はい。三省堂にのってた資料の中で、その他の一行目「項目のレイアウトや色使いにユニバーサルデザインが採用されている」この後に、「原色抑制」と書いてあるんですが、あまり聞きなれない言葉かなと思うんですが、これによって何か視覚的に重要であるということなんでしょうか。

(専門員長)

はい。原色が視覚に刺激が強すぎて、教科書に目が向けられないというお子さんもいると聞いております。そういったところで、少しこう原色ではなくて、トーンを落としたような、ちょっとパッと見た感じ鈍い感じに見えるような色で、グラフとかそういうのを表しているのが特徴だと思います。

(委員)

よくわかりました。

(議長)

はい。他にはいかがですか？

(議長)

よろしいですか？

(議長)

はい。それでは以上で国語の質疑を終了します。専門員長さん、ありがとうございました。

(専門員長)

どうもありがとうございました。

書写	<p>(議長) 退出してください。</p> <p>(専門員長) 失礼します。</p> <p>(議長) では書写の専門員長を入室させてください。</p> <p>(専門員長) 失礼します。</p> <p>(議長) では書写についての説明をお願いいたします。</p> <p>(専門員長) はい。よろしくをお願いいたします。 皆さん、こんにちは。</p> <p>(委員) こんにちは。</p> <p>(専門員長) 私は、国語科書写専門員長を務めます、富士見市立本郷中学校、校長の上堀でございます。これより、書写調査研究の結果を説明いたします。書写では4者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、一つ目「書写にかかわる基礎的・基本的な技能について」、二つ目「主体的な学びを支える資料・構成について」、三つ目「その他」の3つを設定し、その結果につきましては、お手元の報告書のとおりでございます。</p> <p>それでは「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。</p> <p>はじめに「書写にかかわる基礎的・基本的な技能について」について説明いたします。始筆から終筆までの送筆を「とん・すう・ぴた」の3つで示し、穂先の向きを表すマークにイラストがあり目を引きます。基本点画にそれぞれ始筆・終筆のマークがあります。字形の整え方のポイントをナンバリングしてわかりやすく示しています。筆のキャラクターが技能理解の手助けとなっております。ただし、楷書と行書の違いを捉えるための文字が小さく見えます。</p> <p>次に、「主体的な学びを支える資料・構成について」について、説明いたします。「目標」「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「振り返って話そう」といった学習の流れに沿って</p>
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教材が構成されております。毛筆では、穂先の動きが濃淡のある薄墨と朱の2色で示してあります。行書の筆脈を青い点線で示し、注意すべき点を記号で示してあります。行書の筆使いを「四つの動き」でパターン化して示しています。毛筆の手本の横には「書写のかぎ」として、書くときの注意すべき点を掲載してあります。

最後に「その他」について説明いたします。小学校の学習事項に8ページを割いて詳しく説明しています。イラストやキャラクターを多く登場させ、興味・関心を高める工夫がされています。歴史や芸術性に触れる一方、生活に密着した書を多く取り上げています。目次にQRコードがあるんですが、このQRコードで、全ての動画を見ることができます。教科書のページごとに動画教材が表示されていてとても分かりやすくなっています。動画は書き手目線で理解しやすいです。ただし、B5版変形なので他の教科書よりも奥行がやや大きくなっています。

次に「三省堂」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「書写にかかわる基礎的・基本的な技能について」について説明いたします。基本点画にそれぞれ始筆・終筆のマークがあります。文字の大きさと配列を学習するために葉書を教材としています。文字の大きさと配列の横書きの学習で、算用数字とアルファベットをなぞるようになっていきます。行書の特徴をふまえて硬筆で書くページに楷書も示されていて違いを認識しやすくなっています。ただし、姿勢と筆記用具の持ち方に確認チェック欄がありません。

次に、「主体的な学びを支える資料・構成について」について、説明いたします。「目標」「書き方を学ぼう」「見つけよう」「考えよう」「振り返ろう」といった学習の流れに沿って教材が構成されています。毛筆では、穂先の動きが濃淡のある薄墨と朱の2色で示してあります。「書き方を学ぼう」では、行書の筆脈を点線や矢印で示し、書くときの注意すべき点を掲載しています。毛筆学習のあとには、硬筆で確かめる「書いて身につけよう」を設けています。

最後に「その他」について説明いたします。p.6に1年時と3年時に氏名・学校名を書く欄を設け、成長を確認させている欄があります。p.68には、部分別行書一覧表を三字体紹介し、理解を助ける工夫がされています。毛筆の教材（手本）が豊富です。ただし、QRコードの動画が基礎編のみなので、手本を書く動画もあるとより理解が深まると思われます。大きさはB5判で扱いやすいものです。

次に「教育出版」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「書写にかかわる基礎的・基本的な技能について」につ

いて説明いたします。基本点画の筆圧を1～3の順序付けをしています。字形の学習で、実際に多くの文字を書く活動になるよう示されています。文字の大きさと配列を学習するために手紙を教材としています。行書の特徴を捉える際、「速く書ける」実用的な書体であるという表記がないため、授業で学習を深めることができます。

次に、「主体的な学びを支える資料・構成について」について、説明いたします。「目標」「試し書き」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」「学習や日常生活に生かそう」といった学習の流れに沿って教材が構成されています。各教材末に「振り返ろう」として評価の観点を示し、自己評価(○△)を記入させるようになっています。毛筆では、穂先の動きが濃淡のある薄墨と朱の2色で示してあります。行書の筆脈を点線で示し、筆順や書くときの注意すべき点を示しています。行書特有の筆使いを体験できるように筆の写真を掲載し、なぞり書きができるようになっています。

最後に「その他」について説明いたします。中学生を登場させ学ぶ姿を入れることで、興味・関心を高める工夫がされています。行書や仮名の運筆を分かりやすく丁寧に説明しています。歴史や芸術性だけでなく、入学願書の書き方など実用性も高める工夫がされています。「コラム」によって文字文化に興味深く学べるよう工夫されています。目次のQRコードで全ての動画を見ることができる。動画は書き手目線で見やすく、書き始めに流れる説明のポイントも的確であります。ただし、B5判変形なので他の教科書よりも奥行がやや大きくなっています。

最後に「光村図書」について調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

はじめに「書写にかかわる基礎的・基本的な技能について」について説明いたします。「書写ブック」がついていて、なぞって書くことで技能の習得に結びついています。「学習の窓」でポイントをまとめて示しています。始筆から終筆までの送筆を「トン・スー・トン」の3つで示し、筆圧を1～3の順序付けをしています。基本点画の始筆・終筆を表すマークが筆跡の線上に置かず、実際の写真で示しています。ただし、楷書と行書の違いを捉えるための文字が小さく見えます。

次に、「主体的な学びを支える資料・構成について」について、説明いたします。「目標」「考えよう」「確かめよう」「生かそう」「学習を振り返る」といった学習の流れに沿って教材が構成されています。各教材末に「学習を振り返る」という評価の観点を示し、生徒にチェックを記入させるようになっています。毛筆では、穂先の動きが濃淡のある薄墨と朱の2色で示してあります。行書の筆脈を点線で示し、筆順や書くときの注意すべき点を示しています。「書写ブック」で、毛筆の学習を硬筆に生かせるようになっています。

最後に「その他」について説明いたします。硬筆練習用「書写ブック」を別冊にすることによって使いやすくなっています。入学願書の書き方や身近なデザインなど、書の実用性を高めています。QRコードは、資料が大変豊富で興味・関心をもたせる工夫がされています。ただし、動画は薄朱墨で運筆がよく分かりますが、目線は左斜め上からではなく真上からが良いと思います。B5判で大きさは大変使いやすくなっています。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。

ただ今の説明につきまして、ご質問・ご意見はありましたらお願いいたします。

(委員)

はい。

(議長)

はいどうぞ。

(委員)

ふじみ野、丸山です。視点の2番目、「主体的な学びを支える資料・構成について」っていうご視点でよくまとまっていると思うんですが、なぜこの視点で教科書を研究されたのか、そこを教えてくださいたいと思います。

(専門員長)

はい。新学習指導要領では、次の三つの項目にすべての教科が整理されました。「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、そして「学びに向かう力・人間性等」です。その中で、特に新学習指導要領で明示されてるのは、何を学ぶか、どのようにして学ぶか、どんな力が身につくかというこの三つがあるのですが、そのどのように学ぶかの中で、主体的・対話的で深い学びというのは明示されてるわけです。そのことから今回書写部会では、主体的な学び、これを支える資料に、はたして準拠しているかという部分で話し合いを進めたところでございます。

(委員)

はい、わかりました。

(専門員長)

はい。

(議長)

他にございますか？

地理・地図

(議長)
よろしいでしょうか。

(議長)
はい。それでは以上で質疑を終了します。専門員長さん、ありがとうございました。

(専門員長)
どうもありがとうございました。

(議長)
はい。退出をしてください。

(専門員長)
失礼します。

(議長)
続きまして、社会科地理的分野及び地図の報告になります。専門員長を入室させてください。

(専門員長)
失礼します。

(議長)
では社会科地理的分野及び地図について説明をお願いいたします。

(専門員長)
はい。皆さん、こんにちは。

(委員)
こんにちは。

(専門員長)
私は、地理・地図の専門員長を務めます、ふじみ野市立花の木中学校、教頭の石田でございます。これより、地理・地図の調査研究の結果を説明いたします。はじめに地理から説明いたします。地理では4者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「1、課題解決の流れに沿った構成について」、「2、資料を読み取る力を身につけさせる上で、資料の種類、資料提示の表現やその説明の文章は適切かについて」の2つを設定しました。その結果につきましては、お手元の報告書のとおりでございます。それでは、地理の調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

す。

まず、「【東京書籍】」について、ご説明いたします。

はじめに「【観点1】」について、主なものをご説明いたします。1番目の○、編のはじめに小学校の学習の振り返りとグループによる協働学習が設定され、単元を貫く「探求課題」を立てて、それを受けて1時間ごとの「学習課題」が示され、生徒が主体的に学習できるよう工夫されています。また、探求課題をスムーズに解決するための問いとして「探求ステップ」を設けています。2番目の○、各見開き1時間のまとめが、「チェック」「トライ」でできるようになっており、学習内容の定着を図る工夫がなされています。

次に、「【観点2】」についてです。3番目の○、イラストを使用したり、自然や生活に関する写真を掲載したりしており、地図中の情報量を多くすることで、生徒がその地域を学習する際、イメージしやすいよう工夫がされています。4番目の○、「スキル・アップ」を設けて、基礎的・基本的な地理的な技能を身につけられるよう工夫がされています。

続いて、「【教育出版】」についてご説明いたします。

はじめに「【観点1】」についてです。1番目の○、1時間の学習課題が明確に示され、学習課題に対応した「確認」と「表現」を設け、学習内容を振り返りながら自分の言葉で表現できるよう工夫されています。4番目の△、「導入ページ」における資料提示の際に、数に開きがあるため、単元を貫く課題を具現化していくには、適切な資料提示等工夫をしていくことが必要となります。

続いて、「【観点2】」について、主なものを説明します。2番目の○、「地理の窓」として51の学習コラムにより興味関心を高め、「地理の技」により基本的な地理的技能や「見方・考え方」を身につけられるよう工夫されています。3番目の○、本時ページ以外にも、記述を補い、生徒の興味関心を引きつける豊富な写真・図版などからなる資料ページ、まなびリンク、巻末に用語解説と統計資料があります。

続いて、「【帝国書院】」について説明いたします。

はじめに「【観点1】」についてです。1番目の○、章のはじめに「問い（単元を貫く課題）」が、終わりに「章の学習を振り返ろう」が明示されており、単元のまとまりで見通しをもって課題解決的な学習を進めるうえでの工夫や、振り返りの中で、思考力・判断力・表現力を高められるよう工夫されています。2番目の○、各見開きに、「問い」に対応した「学習課題」が提示され、解決に向けた「確認しよう／説明しよう」を行うことで、「深い学び」につながるよう工夫

がされています。

次に、「【観点2】」について説明いたします。3番目の○、地理的分野の用語を説明した「解説」が該当ページにあり、図解や写真を通して視覚的に理解が深まるよう工夫されています。4番目の○、資料の読み取りのポイントを示した「資料活用」が随所に設けられ、資料の活用を通して「地理的な見方・考え方」を育めるよう、また「技能をみがく」によって、基礎的な技能が習得できるよう工夫されています。

続いて、「【日本文教出版】」についてご説明いたします。

はじめに「【観点1】」についてです。1番目の○、「導入」「大観」「主題学習等」「ふりかえり」で構成されています。視覚的にとらえることから、学習内容を大まかにつかむとともに、1時間の学習課題が明確に示され、学習課題に対応した「見方・考え方」を働かせて、自分の考えを深めるとともに「確認」を設け、学習内容の振り返りができるよう工夫がされています。3番目の△、単元を貫く課題を具現化するには、適切な資料提示や課題解決に向けた「問い」の工夫等が必要となります。

次に、「【観点2】」について、主なものを説明いたします。2番目の○、「トライ」により、必要な情報の読み取り等の技能を高められるよう、また「スキルUP」により、必要な技能を系統立てて習得できるよう工夫されています。3番目の○、「地理+α」により、学習内容に関するトピックスや現地の人の言葉、作業学習の提案をするなど、学習を楽しく深めていけるよう工夫されています。

地理の説明は、以上でございます。

続いて地図について説明いたします。地図では2者について、調査研究を行いました。調査研究の観点といたしまして、「1、地形図、分布図、地勢図として活用する場合、色合い、グラフ、地名表記など、適切に表現されているか」、「2、学習内容とのつながりについて」、「3、その他」の3つを設定しました。その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。それでは、地図の調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

まず、「【東京書籍】」についてです。

はじめに「【観点1】」について説明いたします。2つ目の○、「フラットデザイン」というものはありまして、これは不要な陰影や立体感のあるデザインをなくし、シンプルなつくりをすることによって、学習の内容の焦点化するよう考えられています。4つ目の○、「ジャンプ」を示し、調べ

ているページと関連する資料とを結びつけ、特徴をとらえやすいよう工夫がされております。5つめの△、標高と地形区分による段彩を組み合わせて地形の特色を読み取りやすくしている反面、土地利用を概観する地図との差別化を図っていますが、地形と土地利用の関係を把握するには更に補充資料は必要となります。土地利用を概観する地図は、色合いもやや薄めとなっております。

次に、「【観点2】」について、主なもの説明いたします。2つ目の○、世界と日本の各州・地方の資料を、「一般図」「基本資料」「テーマ資料」の流れで構造化し、教科書との関連資料を掲載し、課題解決的な学習で活用できるよう工夫がされています。3つ目の○、「教科書準拠資料集」として、地理だけでなく歴史や公民の教科書との連携が強化されており、教科書の補充・深化に繋がる内容や補充資料も多く掲載されております。

最後に、「【観点3】」について説明いたします。地図の重さは557g、全192ページとなっております。

続いて、「【帝国書院】」についてご説明いたします。

はじめに「【観点1】」について主なものを説明いたします。2つ目の○の後半、統計資料は巻末に掲載され、地方別、項目別な色分けがされ、数値的に地域の特徴や違いが捉えやすいよう工夫されています。3つ目の○、基本的に日本も世界の地図も等高段彩表現を用いており、土地の起伏感が捉えやすくなっています。特に日本の地図表現では、地域のくらしや産業が見える土地利用表現と、地形が見える等高段彩表現を合わせた地図表現を用いる等の工夫がされており、読み取りやすいものとなっております。5つ目の○、比較を通して地域の特色が考察できるよう、自然や人口などの主要素をまとめた資料図の縮尺や雨温図の単位等が統一なされております。

次に、「【観点2】」について説明いたします。2つ目の○、それぞれの地域の特色を具体的に読み取れるよう、「基本図」「鳥瞰図」「資料図」という配列で構成されています。3つ目の○、「地図活用」は94か所、131問新しく設置されています。地図技能の向上や、生徒が自ら考えより良いあり方について検討し、他の生徒と話し合い、協議して取り組めたりするような課題や作業の提示がなされ、「社会的な見方・考え方」を働かせた学習になるよう工夫されています。

最後に、「【観点3】」について、ご説明いたします。地図の重さは515g、3.9cm縦長となり大判化して見やすくなりました。全188ページとなっております。説明は、以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。

ただ今の説明につきまして、ご質問・ご意見がありましたらお願いします。

(委員)

はい。

(議長)

はい、どうぞ。

(委員)

はい。ふじみ野市の丸山です。よくまとまっていると思います。それで観点1、「課題解決の流れに沿った構成ついて」ということで、それぞれの教科書会社、そのへんのところ載っていると思うんですが、今回の学習指導要領のキーワード、「深い学びにつながるように工夫されてる」というの、私が読んだ限りは、どの教科書会社さんもそこを大きなねらいで教科書を作っておられるかなと思うんですよ。ところが帝国書院さんの中の2番目ですか？の中で、ここだけ深い学びというのが入ってないんですけど、理由があったら教えてください。

(専門員長)

はい。各社とも確かに入っているんですが、帝国書院さんの部分につきまして、1時間の学習課題、それから確認しよう、説明しようっていうところでの流れにつきまして、帝国書院さんの特徴は、深いところはこの部分かということ、帝国書院さんの方には入れさせていただいているんですが、他の教科書についても、この深い学びが行えるようこういう記述がなされていることには間違いありません。

(委員)

はい。じゃあ関連でそうすると、私たちの目の前にいるお子たちにとって、2市1町のお子たちにとって、深い学びをさらに深めていくためには、このような教科書の内容でよろしいとそういうことなんですね。

(専門員長)

帝国書院の教科書はよいという…

(委員)

わけではない？

(専門委員)

わけではなく、はい、それぞれの特徴の中で特についていうところで説明をさせていただきました。

(委員)

はい。どうもありがとうございました。

(議長)

他にございますか？

(委員)

はい。

(議長)

はい、お願いします。

(委員)

はい。地図の方なんですけれども、フラットデザインについて、簡単で結構なんですけれども説明をしていただきたいと思うんですけれども。

(専門員長)

フラットデザイン。

(委員)

はい。

(専門員長)

フラットデザインというのは、地図を捉える時に、不要なものを排除して、できるだけ立体感のあるようなデザインがなくなる形で、ある一つの事柄に特化してそれを見ていくっていう意味で、この地図ではこれを使うというところをこう焦点化しているという物になっています。

(委員)

ありがとうございました。

(議長)

他にございますか？

(委員)

はい。

(議長)

はい、お願いします。

<p>歴史・公民</p>	<p>(委員) はじめまして池上です。日本の領土・領域の学習において、内容に特色の違いがございますか？</p> <p>(専門員長) はい。各者とも、その内容の取り扱いについては、学習指導要領にのっとっております。基本的にどれも日本の固有の領土であるということの明記は、なされております。それから、北方領土と竹島については、不法に隣国に占拠されている、占領されているということで領土問題として取り上げておりますが、尖閣諸島については、日本が領有、日本の政府が関与しているところになっておりますので、領土問題は存在しないというところで各社とも記載がされております。</p> <p>(議長) よろしいですか？</p> <p>(委員) はい。</p> <p>(議長) 他にございますか？よろしいですか。はい、では以上で質疑を終了いたします。専門員長さん、ありがとうございました。</p> <p>(専門員長) ありがとうございました。</p> <p>(議長) 続きまして、社会科歴史的分野及び公民的分野の報告をお願いします。専門員長を入室させてください。</p> <p>(専門員長) 失礼します。</p> <p>(議長) それでは社会科歴史的分野及び公民的分野についての説明をお願いいたします。</p> <p>(専門員長) 皆さん、こんにちは。</p> <p>(委員) こんにちは。</p>
--------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(専門委員長)

私、三芳東中学校、校長の林でございます。社会科の歴史的分野及び公民的分野を担当させていただきます。それではこれより、調査研究の結果をご説明いたします。社会科の歴史的分野・公民的分野、それぞれ6者について、計12者について調査研究を行いました。調査研究の観点といたしましては、観点1として「課題解決の流れに沿った構成について」、観点2として「資料を読み取る力を身に付けさせる上で資料の種類、資料提示の表現やその説明の文章は適切かについて」、さらに「その他」の3つを設定しました。他に改善点についても、調査をさせていただきました。その結果につきましては、お手元の報告書のとおりでございます。

それでは、歴史的分野からご説明いたします。

はじめに「東京書籍」についてです。「【観点1】」についてご説明いたします。章の初めに導入の活動を設け、小学校の振り返りとグループ学習を通して、単元を貫く課題と節ごとの課題、1時間の学習課題を示し、主体的に学習できるよう工夫され、章末「まとめ活動」では、様々な思考ツールを使い、時代の特色を自分の言葉でまとめることができるよう工夫されています。また、1時間のまとめがチェック&トライの2段階になっており、学習内容の定着が確実にできるようになっております。

「【観点2】」です。スキルアップでは、情報を集めたり、資料を読み取ったりまとめたりする活動を通して、基礎的・基本的な技能が身に付けられるよう工夫され、歴史的な「見方・考え方」を活用して資料を読み取り、学習を深めるためのコーナーも、設けられております。

続きまして「教育出版」についてご説明いたします。

「【観点1】」です。各章の導入部分「学習を始めよう」において、学習する時代のイメージをつかみ、前の時代との違いを予測できるよう、予想できるよう写真やイラスト資料が紹介され、読み解くことができるよう配慮され、1時間のまとめとして、「確認」と「表現」で、振り返りと自分の言葉でまとめの表現ができるように工夫されております。

「【観点2】」です。「歴史の技」という地図の活用、系図の読み取りなど、歴史学習の基本的な技能を身につけるコーナーが設けられ、導入資料には、資料を読み解くヒントが吹き出しにして提示されており、興味・関心を高める工夫をします。

他に、視点を変えて、学習内容を捉え直すコーナー（「歴史の窓」）を設け、多面的・多角的な思考を促す工夫もされております。

次に、「帝国書院」についてです。

はじめに「【観点1】」です。各章・節・見開きに問いと振り返りを設け、見通し、振り返り学習ができるようになっており、「章の学習を振り返ろう」では、見方・考え方を働かせて、章の問いに対する自分の考えを整理し、話し合い活動を通して自分の考えを深め、自分の言葉でその時代の特色をまとめる構成になっております。

「【観点2】」です。各時代の社会のようすを描いたイラスト「タイムトラベル」が設けられ、視覚的にその時代をイメージできるよう工夫され、写真や絵も大きく見やすく、文献資料なども効果的に配置されており、授業がしやすいよう工夫されております。他に、年表のインデックスがページの右側にあり、どの時代を学習しているか一目でわかり、巻末の世界史年表と対比させると、世界との対応ができるようになっております。

次に、「山川出版」についてご説明いたします。

はじめに「【観点1】」です。章の導入で、世界史と日本史を並列させた年表と写真資料が示され、視覚的に流れをつかむよう工夫され、各章末のまとめで、歴史的な見方・考え方を働かせる発問が用意され、各時代の流れや特徴をより深く確認できるよう工夫されております。

「【観点2】」です。写真やイラスト資料、文献史料が豊富で、資料に関連して考えてほしい課題が設けられ、生徒の思考を助けるための工夫も見られ、「歴史を考えよう」や「地域からのアプローチ」では、美術作品や史料を読み解く力を育てる発展的な課題を追究できるよう工夫されております。改善点としては、高校を意識した教科書ということで、やや専門的な記述が多く、子どもにとっては少し難しいと、さらに文章量も多いので、全体的にフォントがちょっと小さくなっております。

次に、「日本文教出版」です。

はじめに「【観点1】」です。各時代の導入では、年表や世界地図を使った時間軸と空間軸から時代を概観し、学習の見通しをもてるよう工夫され、見開きの学習課題の下に設けられた「見方・考え方」では、課題解決に向けた手がかりが示され、「深めよう」では、問いを通して学習課題の理解が深められるように工夫されております。

「【観点2】」です。各時代の文化史については、見開き左は資料の掲載、左側に文章、その他資料を載せるなど、資料集を使わずに学習が進められるよう構成され、また「小年表」というのが必要に応じて設けられ、出来事を時系列でとらえやすくする工夫がみられております。改善点としては、見開きのレイアウトが、資料の配置の仕方等が異なっている

箇所があるので、全体を通して統一した方が使いやすいと思われま

次に、「育鵬社」です。

「【観点1】」です。章の冒頭の「歴史絵巻」において時代を大観させ、「〇〇の世界へようこそ」で、各時代の特色をつかむための設問を設け、興味・関心を高める工夫がなされ、「『私の歴史博物館』では、デザインしてみよう」では、展示方法を考えることで、資料からさまざまな情報を調べ、まとめられるよう工夫されています。

「【観点2】」です。「史料の読み方」コーナーを設け、資料を読み解く技能を育てるための工夫がみられ、資料の部分拡大、資料を読み解く着眼点を示すなど、興味・関心を高め、思考を助ける工夫もみられます。改善点としては、単元を貫く課題・節の課題は明記されておらず1単位時間での課題しか提示されていないので、単元や節で追究する課題が設けられているとよいと思われま

「歴史的分野」の説明は以上でございます。

続いて、公民的分野についてご説明いたします。

はじめに「東京書籍」です。

「【観点1】」についてご説明いたします。「導入の活動」で章全体を貫く課題を設定し、1時間ごとの「学習課題」を提示し、それを補助する活動を通して、課題解決的な学習の流れが作られ、まとめの活動に多様な思考ツールを紹介し、生徒が主体的に思考・判断した内容を適切に表現できるよう工夫されています。

次に「【観点2】」です。写真資料が多く掲載されており、生徒の興味・関心を高め、主体的に学習に取り組むよう工夫され、資料の読み取りや収集方法等を紹介する場面や、それを活用するためのコーナーが設けられ、資料を読み取る力を身に付けさせる工夫が見られます。他に、現代社会の見方・考え方を働かせ、学習が深められる場面には、「見方・考え方」コーナーが設けられています。

続いて「教育出版」についてです。

「【観点1】」について説明いたします。各章の導入「学習の始めに」で、漫画などの資料を提示し、いくつかの問いから、課題を見出し、見通しをもって学習が進められるよう工夫され、章のまとめでは、「学習のまとめと表現」で、基礎基本の確認、資料を使った探究活動や章全体のテーマに対する自分の考えを表現する活動が用意されています。

「【観点2】」です。導入資料を「LOOK!」という解説文や吹き出しによって、生徒の興味・関心を高め、学習内容に見通しを持って主体的に学習に取り組めるよう工夫さ

れ、「読み解こう」で、資料の読み取りと、問いを手がかりに考えることができ、資料を活用する力を身に付けさせるための工夫がされております。改善点としては、新聞記事の切り抜きを活用した資料が少なく、掲載数を増やしたほうがよいかと思います。

続いて「帝国書院」です。

「【観点1】」です。章扉に、導入ページとして内容に関連したイラストが見開きで描かれており、単元の学習内容を概観することができ、章のまとめでは、自分の考えを整理し、意見交換を通して、それを深め、章の問いへの答えを自分の言葉で表現するという流れになっており、そのためのワークシートの例も掲載されております。

「【観点2】」です。導入資料は、わかりやすい模式図や写真資料を使い、生徒が興味・関心を持って取り組めるよう工夫されております。資料を読み取るための視点として「資料活用」の項目が設けられ、生徒の資料活用能力が高めるための工夫も見られます。

他に、経済単元では、パン屋経営を疑似体験できる「パン屋を起業しよう」が単元を通して設定され、実感を伴って理解し、生きた知識を無理なく身に付けられるように工夫されております。

次に、「日本文教出版」についてご説明いたします。

「【観点1】」です。各章の導入「学習のはじめに」で、漫画により、抽象的な概念である「見方・考え方」を、具体的な場面を通して理解できるように工夫し、課題の解決に向けた手がかりとして「見方・考え方」を示し、課題について考えを深め、対話的な学習をすすめることができるコーナーを設けてられています。

「【観点2】」です。最新の統計資料、写真、新聞記事、分かりやすいイラストなど資料が数多く掲載され、情報の読み取り等を行う「情報スキルアップ」や収集した情報をまとめ、考察する際に活用できる「シンキングツール」が適宜設定され、効果的に調べ、まとめる技能が身に付けられるよう工夫されております。改善点としては、1単位時間の学習のまとめが、「確認」の一つしかないので知識習得の項目を設ければ、さらに学習内容が定着すると思われる。

続いて「自由社」です。

「【観点1】」についてご説明いたします。1単元の見出しの、1単位時間の見出しの下に、学習の課題が示されております。また最後の「ここがポイント」で学習内容の確認ができるように工夫され、「もっと知りたい」という特設ページに関連する単元のそばに設けて、発展的な内容が学習でき

るようになっております。

「【観点2】」です。本文に関連する事例等が「ミニ知識」として紹介され、生徒が興味、関心を持って学習に取り組めるよう工夫されております。改善点としては、各章のまとめに、基本事項の確認や「学習の発展」として文章でまとめる課題が設定されていますが、対話的な学習を促すような課題設定が少ないと思われます。また、資料の掲示数が、提示数が場所によって差があり、少ないページでは余白が若干多くなっております。

次に、「育鵬社」です。

「【観点1】」についてご説明いたします。各章の導入に「〇〇の入り口」を設け、学習意欲や興味・関心を引き出す工夫が見られ、章のまとめでは、「入り口」で示された課題を受けて、見開き2ページで「〇〇のこれから」を設けて、学んだ内容を生かして取り組む課題が設定されております。

次に、新聞記事が多く使われたり、世界の中の日本を意識しやすい他国と日本を比較できるような資料も多く掲載されてたり、多種多様なコーナーや特設ページを設けて、参加型の学習や技能や考察力を身に付けることができるよう工夫されております。改善点としては、課題解決のために、見開き2ページに写真やグラフなど資料が多く掲載されておりますが、少し小さいものがあり、読み取りにくいものもあります。

以上で、報告を終了させていただきます。

(議長)

ありがとうございました。

ただ今の説明につきまして、ご質問・ご意見はありましたらお願いします。

(委員)

はい。

(議長)

はい、どうぞ。

(委員)

あの、歴史的分野とか公民の分野っていうのは、意外とオンライン学習しやすい分野かと思うんですけど、そういう意味で特徴的にこの教科書会社さんは、まあオンライン学習に対応するような、もう時代を先読み？をされてるような特徴はある？

(専門員長)

はい。えーとですね、教科書ガイドによっては、QRコードがもうのってて教科書に、そこにスマホでQRコードを読み取ると、それぞれの専用サイトに飛んでいくようになっていたり、動画を見れたりっていうふうになっています。ですので今後、各学校に一人一台タブレットが入るようになると、そこでQRコードを読み取って、そのまま飛んでいけるようになってるので、そういう工夫をしている会社は何社かございます。

(委員)
なるほど。

(専門員長)
はい。

(委員)
はい。ありがとうございます。

(議長)
他にありますか？どうぞ。

(委員)
富士見市の箕輪です。あの教育出版と育鵬社のところで、新聞記事の切り抜きについてふれられてるんですけども、N I Eをすすめるということは、2市1町でスタンダードになってる…

(専門員長)
いや、まだそこまではですね、統一したものはないんですけども、社会以外の国語等でも取り組んでいるところもあるようですし、学校によってまちまちです。ただ、やっぴこうっていうような動きはあるので、育鵬社は作っているのが産経系なので、比較的新聞紙記事が多いというのが特徴的だったと思います。調べてみましたけど。

(委員)
はい。

(専門員長)
そういうことです。

(議長)
他にございますか？よろしいでしょうか。では以上で質疑を終了いたします。専門員長さん、ありがとうございました。

数学

(専門員長)

ありがとうございました。

(議長)

数学の専門員長さんを入室させてください。

(議長)

では数学の説明をお願いいたします。

(専門員長)

皆さん、こんにちは。

(委員)

こんにちは。

(専門員長)

私は、数学科専門員長の三芳中学校長の萩原でございます。これより、数学科調査研究の結果を説明いたします。数学科では7者について、調査研究を行いました。「問題解決的な学習の構成」「数学的活動の事例」「つまずきへの取り組み」この3つを調査研究の観点とし、そのどれともいえない特徴を「その他」としました。その結果につきましては、お手元の報告書のとおりです。

それでは、「東京書籍」について調査研究結果を観点に沿ってご説明いたします。

はじめに「問題解決的な学習の構成」についてです。問である「Q（考えてみよう）と補助質問①②・・・」や、「深い学び」のページの設定により、問題解決の過程を明確にしなが、主体的に学習に取り組めるよう工夫されています。また、吹き出しを用いた「つぶやき」で解決のヒントやまとめの方向性を適切に示してあります。複数の考え方を示したりして、数学的な思考力・表現力を高めるよう工夫されています。

次に「数学的活動の事例」についてです。「章のとびら」や「節の導入」「深い学び」のページに作業的な活動や、身のまわりの事柄を題材とした多くの数学的活動を設定し、数学のよさが実感できるようにしています。また、2年生の第7章「データの比較」では、スナック菓子やドリンクの販売数の例題で、生徒にとって身近で扱いやすく、「コンビニの店長だったら・・・」という生徒の興味を引く設定で課題に取り組みせるなど工夫されています。

最後に「つまずきへの取り組み」についてです。1年生では「0章 算数から数学へ」を設けて、「整数の性質」で導入し、「1章 数の世界を広げよう」の「正負の数」に繋げ

るようになっており、小中学校の接続を意識した工夫がされています。また、例題と同じ形式で解ける問題には◆マークが付けられ、問題を焦点化し、数学が苦手な生徒が取り組みやすいよう工夫されています。しかし、3年生の第1章の導入が「円の弧を使った問題」となっており、難易度が高く、つまずきやすい問題であるため、工夫が必要であると考えます。

続いて「大日本図書」についてご説明いたします。

はじめに「問題解決的な学習の構成」についてです。「考えよう」「めあて」「活動」という問題解決の流れが統一して示され、一貫した流れに沿った学習を進めることで、生徒が問題解決の流れを身に付け、主体的に学習に取り組みやすいように工夫されています。また、各単元の利用の節では、問題解決の過程に沿って数学的活動に取り組み、「深めよう」の過程で新たな問題や条件設定が示され、深い学びに向かう工夫がされています。

次に「数学的活動の事例」についてです。章の導入では、興味・関心を引く身近な事柄を題材とした数学的活動、章末の「活用・探求」、巻末の「課題学習」では、学習を深める数学的活動が設定されています。しかし、2年生の第6章「データの比較と箱ひげ図」では、各国のバレーボール選手の身長の比較の事例を扱っていますが、生徒のスポーツへの関心度が、授業への興味・関心、取り組みへの意欲に影響を与える懸念があります。

次に「つまずきへの取り組み」についてです。「例」や「例題」には、考え方や解き方を示す具体的なタイトルが付けられ、学ぶ内容や問題の考え方、解き方を分かりやすく示しています。また、「□章を振り返ろう」の問題では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の評価の観点が明示され、伸ばしたい力を意識した問題に取り組むことができるようになっています。

最後に「その他」ですが、考え方や解き方の多様性を取り上げたり、2通りの解き方を比較する学習活動を設定したりして、効率よく解く方法を考えさせるための工夫がされています。

続いて「学校図書」についてご説明いたします。

はじめに「問題解決的な学習の構成」についてです。次の学習内容に導くための視点が、「次の課題へ」という吹き出しで示されていて、生徒が新たな内容に取り組み、問題解決的な学習を進めやすいように工夫されています。また、学習の「目標」の明示や、「見方・考え方」の表示、「吹き出し」等でヒントを示すことで、問題解決に見通しを持って学習を進められるようになっています。しかし、「数学的活

動」のページでは、生徒の対話の形で考え方や解き方が提示され、問題解決的な学習の助けとなっていますが、授業の構成上、生徒に気付かせたり、生徒から引き出したりしたい事柄などが予め示されている場面も多く、提示する内容には工夫が必要であると考えます。

次に「数学的活動の事例」についてです。身近な問題が多く用意されており、1つの問題を解決した後に新たな問題が提示されることで、深い学びに向かう工夫がされています。しかし、2年生の第7章「データの分析」では、バスケットボールの得点のデータを分析する事柄を扱っていますが、生徒のスポーツへの関心度が、授業への興味・関心、取り組みへの意欲に影響を与える懸念があります。

最後に「つまずきへの取り組み」についてです。新しい章に入る前に「ふりかえり」のページが設定されていて、既習内容の確認を行ってから、新しい内容に入ることができます。また適宜、誤答例を扱う問題を設定し、正しい考え方を身に付ける活動が仕組まれており、技能だけでなく、知識・理解を図るよう工夫されています。

続いて「教育出版」について説明いたします。

はじめに「問題解決的な学習の構成」についてです。各単元の活用の節や学習内容の活用場面で、問題解決のプロセスが明示され、生徒が主体的に問題解決に取り組むことができ、問題解決的な学習の授業構成がしやすいと考えます。また、各章の「学習のまとめ」のページに「ノート感想例」が掲載され、ノートのまとめ方や学習のまとめの文章表現を具体的に示し、表現力育成のための工夫がされています。

次に「数学的活動の事例」についてです。各章の利用場面での数学的活動の事例がやや少なく、全ての章に数学的活動の事例が適切に設定されるよう工夫が必要であると考えます。しかし、2年生の第7章「データの分析」では、花粉の飛散量のデータを比較する題材を扱い、生徒にとって身近で関心を持てるとともに、箱ひげ図の有用性を理解する上で適切な題材であると考えます。

次に「つまずきへの取り組み」についてです。「例題」から「問」の間に「たしかめ」の問題が設定され、段階的に丁寧に問題に取り組むよう工夫がされており、数学が苦手な生徒が取り組みやすいようになっています。また、各章の前に関連する既習内容の問題があり、既習内容を踏まえて新しい内容の学習に取り組めます。また、生徒の実態を把握した上で導入し、指導に活かすことができます。

最後に「その他」ですがページの側注に関連する既習内容や豆知識等が示され、生徒が主体的に問題解決できるよう工夫されていますが、情報量が多く、紙面構成に工夫が必要であると考えます。

続いて「啓林館」についてご説明いたします。

はじめに「問題解決的な学習の構成」についてです。各章の利用場面で、問題発見・解決の過程を4段階で統一して示し、一貫した流れに沿った学習を進めることで、問題解決的な学習の習熟を図っています。また、例や問だけでなく、「説明しよう」「話し合おう」「まとめよう」の場面を設定し、対話的・協同的な学習を促すとともに、表現力や思考力を高める工夫がされています。

次に「数学的活動の事例」についてです。概ね全ての単元に数学的活動の事例が設定されており、身近で社会との関連を意識した事例が多く、生徒が授業で課題を理解し取り組みやすいよう工夫されています。また、2年生の第7章「箱ひげ図とデータの活用」では、インターネットの通信速度の事例を扱っていますが、送受信可能な情報量のデータは、動画を快適に見るための比較であり、今日的な題材で生徒の興味・関心を高める工夫がされています。

最後に「つまずきへの取り組み」についてです。既習内容の確認が必要な場面には、その都度、必要な内容が細かく記されているので、ページを遡ったりする必要がなく扱いやすいと考えます。また、頻繁な「話し合おう」「ひろげよう」の設定により、課題や活動に変化を持たせ、授業の中で、生徒が学習意欲の持続や集中力を維持できるように工夫されています。さらに裏表紙からの「自分から学ぼう編」の「学びをいかそう」では、興味・関心を喚起する題材が豊富に用意され、自主的な学習を促す工夫がされています。特に1年生の「算数を振り返ろう」では、小学校でつまずきやすい内容を、工夫された題材により取り組みやすく、分かりやすくまとめられています。

続いて「数研出版」についてご説明いたします。

はじめに「問題解決的な学習の構成」についてです。生徒同士や先生との対話の形で、生徒の考え方の例を示したり、新たな課題や学習の方向性を示したりしていますが、授業の展開が、あらかじめ示されてる場面も多く、教科書の活用の仕方や授業の構成上の工夫が必要になると考えます。しかし、別冊の「探究ノート」を活用することで、教科書の学習を踏まえた問題解決的な学習がしやすいと考えます。特に数学が得意な生徒にとっては興味・関心を引く課題が設定されています。

次に「数学的活動の事例」についてです。数学的活動の事例が、生徒の実体験に即した身近な題材が設定されており、生徒が興味を持って主体的に取り組めるよう工夫されています。また、2年生の第6章「データの活用」では、体力テストの新聞記事、ハンドボール投げの記録を比較する事例を扱

っており、生徒の身近な題材であり意欲的に取り組むことができると思います。

最後に「つまずきへの取り組み」についてです。各章の前に「ふりかえり」として関連する既習事項のまとめと問題が設定されるとともに、随所に「ふりかえり」として既習事項が提示され、確認しながら学習に取り組めるよう工夫されています。また、巻末に当該学年までの学習内容のポイントが、丁寧に見やすくまとめられています。特に、1年生では算数と1年のまとめ、3年生では3年間のまとめとなっています。さらに、巻末の「チャレンジ編」では、多様な発展課題を用意するとともに、問題解決の考え方と解答例が丁寧に示されており、習熟度が中位の生徒への配慮がされています。

最後に「日本文教出版」についてご説明いたします。

はじめに「問題解決的な学習の構成」についてです。「学び合おう」のページでは、問題解決の過程が明示され、生徒が主体的に学習に取り組みやすく、巻末の「対話シート」を用いて問題解決的な学習の授業構成がしやすいと考えます。また、「問」に「考えよう」「話し合おう」「説明できるかな」等の学びのポイントを示して、主体的に考えさせたり、説明させたりすることで、問題解決を促す工夫がされています。

次に「数学的活動の事例」についてです。各章の利用場面での数学的活動の事例がやや少なく、全ての章に数学的活動の事例が適切に設定されるよう工夫が必要であると考えます。しかし、2年生の第6章「データの分布と確率」では、全国の猛暑日のデータの比較を扱っていますが、身近な題材であり、さらに居住地域のデータを盛り込むことで、意欲的な取り組みを期待することができると思います。

最後に「つまずきへの取り組み」についてです。各章の前に関連する既習内容の問題や確認事項の記述があり、既習内容を踏まえて新しい内容の学習に取り組めるとともに、生徒の実態把握をした導入、指導に活かせると考えます。また、節などの終わりなど、随所にページ下に「次の課題」を示すことで、既習内容と新たな学習との接続を円滑にする工夫がされています。さらに、1年生の巻頭に「算数の確かめ」として算数の主な既習事項のまとめがあり、巻末には「算数の確かめ（問題編）」が、中学校の教科書と同形式で用意されており、小中学校の学習の接続に配慮されています。

説明は以上でございます。

(議長)

ありがとうございました。

ただ今の説明につきまして、ご質問・ご意見はありましたらお願いします。

(委員)

はい。

(議長)

はい、お願いします。

(委員)

はい、三芳の長野です。箱ひげ図というものはどういったものなのか教えてください。

(専門員長)

はい。箱ひげ図というのは、今回の改訂により中学校で新規に指導することになった内容です。箱ひげ図とは、複数の分布を比較する際に、視覚的に比較がしやすい統計的な表現です。全てのデータを小さい順に並べ、4つに等しく分けたときの3つの区切りを小さいほうから第1四分位数、第2四分位数、第3四分位数といい、第2四分位数は中央値のことです。これらの3つの四分位数と最小値、最大値を、第1四分位数から第3四分位数までの範囲を表す箱と、箱から最小値、最大値までを表す箱の両側に伸びる線（ひげ）を用いてひとつの図で表したものです。それによって、数値の散らばり具合とデータの状況を図的に示す、そういう内容のもので

(議長)

はい。よろしいですか。

(委員)

…はい。

(専門員長)

ちょっと難しいですね。

(委員)

ちょっとよけいにわからなくなって…

(議長)

図で示せればわかるんですけどね。

(専門員長)

そうですね。箱があって、ひげがこう伸びていて、最大値と最小値については、その数値のことによって、データの的に見ると左右されてしまうんですけども、真ん中の箱の部分については、影響が少ないと。データのまとまり感がある。

そのデータの部分を比べることが図的にできるというふうに考えていただければと。

(議長)

はい、じゃあ次お願いします。

(委員)

はい。ふじみ野市の丸山です。この視点の中で、私も責任の一端はあるかなと思うんですけど、「つまずきへの取り組み」ということで、この視点を、なぜここに入れざるを得なかったのかってところを、理由をできるだけ細かく。

(専門員長)

やはり数学は、学力の差がやはり二極化と一般的にいわれるところで、苦手な子は明らかに諦めてしまう傾向も見られます。そういった意味では、そういう子どもたちも授業の中で、生かしていけるそうゆう形、あるいは、その子たちが学習に向かうように工夫する、そういう視点が必要であろうというふうに考えました。

(委員)

はい、ありがとうございます。

(議長)

他はいかがですか。はい、どうぞ。

(委員)

はい。デジタルコンテンツの内容について何か特色はございますか。

(専門員長)

はい。各社工夫をされています。各社ともICTの積極的活用への対応ということで、とても工夫を行われていると思います。授業中や家庭学習において、タブレットだとかスマートフォンを活用して、教科書の中のQRコードを読み取って、関連する情報や課題、情報を見ながら課題に取り組んだりできるようにしています。例えば図形の問題であれば、図形が出てきてその図形をいじりながら授業に進むことができたりとか、証明問題であれば、その証明の図を動かして発展的に考えたりとか、そういうことができるように各社工夫をされています。また、デジタル教科書等を活用することで、問題に関連する資料等を視覚的に提示して課題解決や説明に活用できるようにもなっております。

(議長)

はい。他には。

(委員)

はい。

(議長)

はい、じゃあ長野委員

(委員)

はい。調査内容の中に、観点の中に「数学的活動の事例」というものがあるのですが、どのようなことを言うのか教えてください。

(専門員長)

はい。数学的な事例ということでは、いわゆる数学的な活動ということになるんですが、数学的な活動というのは、言葉は難しいんですが、事象を数理的にとらえ、数学の問題を見出して、問題を自立的協働的に解決する過程を遂行することを数学的活動と言います。ですから1つの事象を見て、それを数学に置き換えてとらえて問題を解決に向けて取り組んでいく、操作的なこともあれば、思考的なこともありますし、話し合いということも出てきます。それをすべて数学的活動というふうにはとらえています。事例ということですので、どのような題材を扱って、その取り組みをさせるかというところを捉えて考えました。特に今回は、箱ひげ図、データの活用のところを視点にして企画をしました。

(議長)

はい、では次の質問をどうぞ。

(委員)

はい。数研出版と啓林館を中心にしか詳しくは見てないんですけども、数学的活動、アクティビティが用意されてるとい印象を受けたんですけども、あれは先生方が教えていくのか、あるいは、生徒が主体的に独自に学習過程として取り組んでいくのか、想定としてはどういうふうを考えてらっしゃるのでしょうか。

(専門員長)

はい、どちらでもあると思います。全てを授業の中で取り扱うことは、時間的な問題から見て難しいかと思います。その中で、興味関心を持った子にとっては、こういう課題も取り組ませることができるという準備としては問題、課題が豊富に用意されてるといいうふうを考えられると思います。

理科	<p>(委員) もうひとつ。</p> <p>(議長) はい、あともうひとつ。はい。</p> <p>(委員) はい、すみません、数研出版のちょっと評価の文章表現で、例えば最後の習熟度が中位の生徒の配慮がされているとか、それから上の第1の視点で、数学の得意な生徒には興味関心を引く、この2つの文章を組み合わせると、数研出版は数学が得意な生徒に向いてるという、まあ評価をされてるのかなって印象を受けたんですけれども。そう捉えた感じで…。</p> <p>(専門員長) とくに研究の段階でそういう形で捉えているわけではないんですが、課題等を見たときに、やはり難しさ、取り組みの難しさはあるだろうと、そういった意味では、1つ上の方では得意なものにとってすごく興味がわくような問題が用意されているという表現させてもらいました。それに対して、つまずきへの取り組み、つまずきは必ずしも低位の子どもにとってのつまずきではなく、中位の子どもにとってもつまずきはあると。そういった中では、その中位の子に視点を当ててるといふふうに捉えました。</p> <p>(委員) はい、ありがとうございます。</p> <p>(議長) 他にございますか。では以上で質疑を終了いたします。専門員長さん、ありがとうございました。</p> <p>(専門員長) ありがとうございました。</p> <p>(議長) では理科の専門員長を入室させてください。</p> <p>(専門員長) 失礼します。</p> <p>(議長) では理科について説明をお願いいたします。</p>
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(専門員長)

はい。皆さんこんにちは。

(委員)

こんにちは。

(専門員長)

私は理科専門員長を務めます、富士見市立つるせ台小学校、教頭の辻庸一でございます。よろしくお願いいたします。これより、理科調査研究の結果を説明いたします。理科では、5者について調査研究を行いました。調査研究の観点は次の3つです。1つめは「理科の『問題解決の流れ』に沿った構成について」、2つめは「地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料について」、3つめが「ICTの活用など新しい内容の取り扱いについて」です。その結果につきましては、お手元の報告書のとおりでございます。

ではまず、「東京書籍」について、調査研究結果を観点に沿ってご報告申し上げます。

まず観点1、「理科の『問題解決の流れ』に沿った構成について」です。問題解決までの流れが一目でわかるよう、各ページ下部に示してあったり、対話例や「理科のミカタコーナー」をヒントに、問題解決に向けての考え方を整理できるようになっていますが、重要事項と既習事項がそれぞれ黒太字や下線で別々に強調されているため、若干混乱する場面も想定されます。

つぎに観点2、「地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料について」です。課題発見から振り返りまでの流れがイラストで描かれていたり、実験の方法が見開きで大きく書かれており、たいへん見やすい印象です。

そして観点3、「ICTの活用など新しい内容の取り扱いについて」です。凸レンズがつくる像や柱状図のシミュレーションなどの作りが秀逸ですが、QRコードがデジタルコンテンツ一覧のページにリンクしているため、学習ページからの目的のサイトにたどり着くまでに時間が若干かかる傾向があります。

次に、「大日本図書」について、ご報告申し上げます。

まず観点1、「理科の『問題解決の流れ』に沿った構成について」です。問題解決までの流れや、各学年で重視することが色分けされてわかりやすい構成になっていますが、思考・表現や話し合い活動の場面が目立たないため、じっくり読むことができない生徒は見落としやすい面もあります。

つぎに観点2、「地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料について」です。単元の初めの「これまでに学習した

こと」が写真も多く、思い出しやすいかったり、生徒が考えた方法で実験を行えるよう工夫されていますが、単元によっては課題と結果が同じページに配置されているため、思考が広げにくい一面もあります。

そして観点3、「ICTの活用など新しい内容の取り扱いについて」です。実験器具の扱い方などの動画が充実しており、自宅学習などには向いていますが、QRコードが目次のページだけにあるため、学習ページからの移動時間が若干かかる面もあります。

次に、「学校図書」について、ご報告申し上げます。

まず観点1、「理科の『問題解決の流れ』に沿った構成について」です。各章の目標が、1時間ごとに明示してあり、学習のめあてを意識しやすい一方、実験の計画、仮説が対話のイラストが中心となっている単元もあり、イメージしにくい子供も想定されます。

つぎに観点2、「地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料について」です。巻末の「理科のトリセツ」で、授業を受ける上でのコツが説明されていたり、各単元のはじめに、身の回りにある現象に目を向けやすくなるよう「問題発見」のページがあってわかりやすい一方、身近な生物を紹介するページで個体数が少なかったりなど、実験操作が何ページにもわたって書かれていて読む力が要求される面もあります。

観点3、「ICTの活用など新しい内容の取り扱いについて」です。単元終末の「Can-Do List」にQRコードがついており、従来の教科書にあったコラムや基本問題などが外部にリンクされていますが、実験や観察などの映像コンテンツへのリンクは目立ちません。

次に、「教育出版」について申し上げます。

まず観点1、「理科の『問題解決の流れ』に沿った構成について」です。単元の最初に各章での「学んでいくこと」が掲載されており、見通しをもって学習を進めることができるよう工夫されていますが、実験における仮説や計画がないものもあるなど、若干ばらつきが感じられます。

つぎに観点2、「地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料について」です。学習における探求の進め方について、5ページにわたって細かく説明されていたり、重要語句への色づけが分かりやすい一方、ページの端から端まで説明文が書かれており、眼球移動が若干必要だと感じます。

そして観点3、「ICTの活用など新しい内容の取り扱いについて」です。QRコードは目次のページにあり、教科書の学習内容と関連した、博物館や企業、個人が作成したホームページにリンクされていて、授業で扱う実験観察そのもの

ではないという、独特なリンクになっています。

最後に「啓林館」について、ご報告申し上げます。

観点1、「理科の『問題解決の流れ』に沿った構成について」です。単元に1つずつ、主体的に課題を解決するための探Q実験が設定されており、また思考・表現や、話し合い活動を促す場面が多く、主体的、対話的で深い学びにつながりやすい一方、意味のある写真が若干見逃しそうな位置にレイアウトされていると感じるところもあります。

観点2、「地域の子供たちの学びやすい観察・実験や資料について」です。課題発見から始まり、考察、振り返りまでの単元の流れが分かりやすく図示されていたり、「みんなで探Qクラブ」が、学習内容と実生活の橋渡しとなっているのが好印象です。

観点3、「ICTの活用など新しい内容の取り扱いについて」です。QRコードは各単元のはじめについており、関連するコンテンツに直結していたり、コンテンツ数も多く、中でもNHKが所有するコンテンツなど信頼性が高いのが好印象です。

説明は以上でございます。

(議長)

はい、ありがとうございました。

ただ今の説明について、ご質問・ご意見はありましたらお願いします。

(委員)

はい。

(議長)

はい、どうぞ。

(委員)

私の方から1点だけ質問をします。東京書籍の教科書の中学2年の電気のところなんですけど、東京書籍だけが静電気から入ります。あとは全て電流回路から入ってますけど、その辺はどうゆうふうにお考えですか。

(専門員長)

はい、これは各社の考えがあると思いますが、その扱う時期によると思います。静電気が発生しやすい秋口から以降にその単元を扱えばその流れがやりやすいと思います。

(委員)

はい。

(議長)

はい、他にいかがですか。はいどうぞ。

(委員)

教科書のタイトルなんですけども、教科は理科なんですけども、サイエンスとか科学というのもある、ちょっと違和感を少し覚えたんですけども、実際に例えばサイエンスという教科書を使うとなったら先生方は「これは理科ですよ」って、例えばですね、学校図書の中身でも理科、科学なんですけども、理科のトリセツという言葉を使ったり、サイエンスカフェとかっていうのも出てくるんですけども、その統一と区別というのはどんなふうに教えられるんでしょうか。

(専門員長)

そうですね。授業が理科の授業になっておりますので、そこで躊躇する先生、生徒は、ないとは考えますけれども、ただ今いろいろ用語が世の中大変多くなっております。そういった意味でも、いろんな捉え方、科学というものをどう捉えるのか、というところをしっかりと説明できる先生が使えば問題ないというふうに考えます。

(議長)

他に。

(委員)

はい。

(議長)

はいどうぞ。

(委員)

ふじみ野市の丸山です。「ICTの活用など新しい内容の取り扱いについて」ということで、啓林館さんの方が、どの教科書会社さんもそれぞれのコンテンツあるかと思うんですけども、その最後のところ、コンテンツも多く、オリジナルの動画だけでなく、NHKが所有するコンテンツへのリンクなど、信頼性が高いものが多いという評価なんですけれども、他の教科書会社さんの教科書には、例えばNHKが所有するコンテンツへのリンクなどは入っていないということですか。

(専門員長)

ないものが多いです。

(委員)

ありがとうございます。

(議長)

他はいかがでしょう。はい、では質疑はないようですので、以上で質疑を終了します。専門員長さん、ありがとうございました。

(専門員長)

お世話になりました。失礼いたします。

(議長)

ここで前半を終了いたしまして、約15分間の休憩を取りたいと思います。再開は3時、午後3時とさせていただきますのでご協力をお願いいたします。